



学習意欲の高揚をはかる「現代社会」の学習指導

—相互評価をとり入れた新聞づくりを通して—

福島県立船引高等学校教諭 小林 壽

1. 研究の趣旨

—動機とねらい—

「今日の外国為替市場は……………」, 「日米経済構造協議で……………」。こうした類のニュースが報道されない日は、近頃では皆無といってよい。本校においても、国際化の波がひしひしと押し寄せ、しかも、その波動が、主として情報メディアを通して感じとられるこの頃である。

ところで、新学習指導要領、公民科、「現代社会」では、内容の(4)国際社会と人類の課題に、「国際的な相互依存関係の緊密化に伴う国際社会の変化及び、日本経済の国際化について理解させ」とある。さらに、内容の取り扱いでは、「的確な資料に基づいて社会事象に対する」、「見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図る」と述べている。

国際化し相互依存関係が益々増しつつあり、また情報化が進展している現在において、学習指導要領で述べていることは、現代社会の重要な指導内容と指導法をあわせ持つキー概念であると、考えられる。

こうしたことを念頭に入れながら、本校生徒の実態を調査し分析した結果は、次のとおりである。

- ① おもな国の首都名を1つも正しく答えられなかった者が57%を数えた。
- ② 新聞を見るのは10分程度で、しかも「政治、経済、国際欄を見るのはきん少であること。
- ③ 生徒が望む授業形態は、視聴覚教材を使ったり、自ら主体的に学習できるそれであること。

2. 仮説

上記のことから標記の主題および以下の仮説を設定した。

「現代社会」の学習において、生徒の興味・関心に応じたグループを作らせ、作業の手順を明示したワークカードにより新聞を作成し、相互評価をさせれば、学習する意欲が高まり、理解が深まるだろう。